

## 目 次

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し.....p.1

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況.....p.5

### 2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の要請に関する目的その他の教育研究上の目的(概要).....p.6

(2) (1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠.....p.7

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生確保の見通し

##### (ア) 入学定員設定の考え方

名古屋大学における学部及び大学院博士前期課程（以下「博士前期課程」という。）の学生定員は、資料 1 に示すとおりである。医学部保健学科及び医学系研究科（保健学）における学部定員に対する博士前期課程の学生数は現行で 0.24 であり、他の理系研究科に比較し著しく低い。文系研究科と比較しても低値であり現行では最も低い経済学研究科（0.21）と同程度となっている（資料 2）。生命科学研究の領域を担う医学系研究科（保健学）においても、名古屋大学が付託される高い水準での研究を目指す中で、他理系学部に近づく学部－大学院の研究者育成体制が必要と考えている。

医学系研究科博士前期課程の志願者は、募集定員と指導教員による大学院生受入可能数に影響を受ける。定員増（現行 48 名から改組後 70 名）により志願者（現行定員にて平均 72 名）の増加は見込まれる。組織改組により、看護科学講座の 4 専門分野は 1 学年各 6 名程度（合計 24 名程度）、その他の専門分野（15 専門分野）はそれぞれ 1 学年 3 名程度（合計 45 名程度）、合計 69 名の大学院生受入れを考えており、定員 70 名とした（資料 3）。定員増に対応した専門分野での受入学生数により、定員は充足するものと考えている。

上記のごとく博士前期課程定員については、研究大学としての名古屋大学における学部－大学院の研究者育成体制及び組織改編による教員配置と大学院受入許容数を基として設定した。

大学院博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）における定員増（現行 17 名、組織改組後 20 名）については、博士前期課程の定員増に伴う進学者の増加が見込まれることが中心である。過去 6 年間に於いて博士前期課程と博士後期課程の学生比率は平均 31%（23～35%（資料 5 及び 10 より算出、各年度で後期課程入学者を前期課程入学者で除したもの））である。博士前期課程の 70 名定員に対応する博士後期課程進学者数が 21 名であることから、博士後期課程定員を 20 名としている。

##### (イ) 定員充足の見込み

#### ① 過去の進学者及び学部学生の進学意志についての調査結果

本組織改組では、学生定員として博士前期課程 70 名（現行 48 名）及び博士後期課程 20 名（現行 17 名）を計画している（資料 3）。

名古屋大学医学部保健学科の学部学生（1 学年約 210 名）の過去 3 年間における進学状況は、全体の約 7 割の学部学生が卒業とともに医療機関へ就職している一方、博士前期課程への進学者は平均 21%（19～24%）、各年約 45 名で推移している（資料 4）。博士前期課程への志願者と入学者は、現行の定員 48 名の募集において、平均志願者数 72 名（63～78

名)及び入学者 58 名 (52~62 名)、定員充足率 122% (108~129%) である (資料 5)。また、平成 30 年度の在学学部学生 1~3 年生 (4 年生は臨床実習中) を対象として実施した進路アンケート調査では、博士前期課程への進学を考えている学生の割合は 1 年生 22%、2 年生 23%、3 年生 26%、全体では 24%であった (資料 6)。これらより、22~26%の学部学生が入学当初から大学院への進学志向を持ち、同様な割合の学生は実際に進学している。現行の大学院教育体制でも今後の大学院進学は同様に推移するものと考えられる。更に、情報科学分野があった場合に進学を希望 (「とても思う」又は「思う」と回答) する学部学生が 12%、大学院に保健医療分野での情報科学分野があった場合には進学したかった (「とても思う」又は「思う」と回答) (34%) (資料 8) と回答があり、保健医療分野での情報科学に特化して進学を希望する学生が一定割合いることから、現行の大学院進学者に加え情報科学分野を希望する進学者の上積みと考えられる。

本組織改組により、大学院志願者の視点からは、現行の大学院教育研究体制に医療情報科学教育と情報科学を基盤とする医療領域の教育研究体制が加わったものと見ることができる。学部学生の進路における情報科学の必要性に関するアンケートでは、自身の進路における情報科学の必要性を、大学院進学希望者で 71%、医療機関への就職希望者で 43%が感じており (「とても思う」又は「思う」と回答) (資料 7)、博士前期課程における情報科学教育研究の充実によりこれまでに加えた大学院進学者があるものと考えている。加えて、情報科学に関する知識と技術を有する人材 (情報科学人材) の不足は領域を問わず不足していることは社会的にも認識されつつあり (資料 9)、本組織改組の柱であるヘルスケア・サイエンティスト育成に関する学部学生の関心と進学者数の増加は、今後見込まれるものと考えている。

博士後期課程への志願者と入学者は、現行の定員 17 名の募集において、平均志願者数 22 名 (15~26 名) 及び平均入学者 18 名 (13~22 名)、平均定員充足率 105% (76~129%) である (資料 10)。博士後期課程における定員 (現行 17 名、組織改組後 20 名) の充足根拠は、博士前期課程への進学者の増加が見込まれることが中心である。博士前期課程と同様に、情報科学人材が不足する社会的背景による医療情報科学分野への進学者の増加も考えられ、定員の充足は見込まれる。

## ② 社会的な人材受容 (ニーズ) から期待される定員充足の見直し

本定員見直しの社会的ニーズは、指定国立大学法人に対するニーズと強く関連する。医療分野における最高水準の研究を実現するための大学院学生数定員の見直しである。本大学院組織改組による医療情報科学の知識を有する人材は、予防・健康増進関連の企業や社会活動において高い需要が見込まれる。関連企業に対して実施したアンケート調査では、情報科学を基盤とした大学院教育への期待は大きく (大学院での情報科学教育を必要と認識 (「とても思う」又は「思う」と回答) ; 医療関連機関 85%、企業等 78%) (資料 11)、情報科学を基盤として研究に取り組んだ大学院生の採用希望がある (「とても思う」又は「思

う」と回答) (医療関連機関 33%、企業等 52%など) (資料 12)。また、情報科学を基盤として研究に取り組んだ大学院生(修士)修了者について採用が想定される部門は、情報解析部門(医療関連機関 54%、企業等 20%)、研究・開発部門(医療関連機関 23%、企業等 61%) (資料 13) と医療専門職としての採用とは異なった新たな人材として採用が想定されている。現行の高度専門職人材に加えて、情報科学の知識と技術を医療の中で生かし Society5.0 の目指す社会に医療分野で貢献する人材の社会的需要、情報科学を基盤とした融合的研究を推進できる人材は、いずれも需要が高いと考えられる。また、在学する大学院生においても情報科学とその教育の必要性は強く認識(「とても思う」又は「思う」と回答)され(情報科学教育の必要性を感じる 77%、情報科学科目の履修希望 62%、情報科学の知識と技術の必要性を感じる 70%)、医療分野での情報科学教育を拡充した大学院教育が求められている(資料 14)。

(ウ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

学部学生及び医療関連機関・企業等へのアンケート調査は、以下のとおりである。

① 学部学生へのアンケート調査(資料 15)

・調査時期：平成 30 年 7 月

調査対象：平成 30 年度に名古屋大学医学部保健学科に在学する学部学生 1～3 年生。

令和 2 年度に大学院進学の対象となる学年(3 年生)を含む。4 年生については大学院入学試験願書の提出及び入学試験実施時期であることから除外した。

調査方法：アンケート質問紙及び回答用紙(資料 15、17)は教員を通じて対象学年の全学生に配布し、自由意志によるアンケート参加を説明し、無記名の回答用紙を配布場所とは別に設置した回収ボックス(学務事務室及びロビー)により回収した。

実施責任者：名古屋大学医学部保健学科長

## アンケートの趣旨の明示

近年の科学技術の進歩とともに、保健・医療分野へのデータ科学の利用が進みつつあります。データ科学は電算機の普及とともに主に工学分野の分野として発展してきましたが、現在では分野を問わず、その技術が利用されるようになってきています。データ科学に関する教育は、語学やその他の教養科目と並んで基礎的教育のひとつとして大学でも積極的に取り入れる方向が示されています。

医学系研究科（保健学）では、これまでの高度専門職教育や研究に加えて、各専攻の領域においてデータ科学の知識と技術をもった人材の育成や、保健・医療領域におけるデータ科学を取り入れた研究の推進を目指して、大学院に新しい教育課程をつくろうと検討が進められています。

このアンケートは、今後大学院教育を受ける可能性のある学部学生の皆さんに、保健医療分野におけるデータ科学、大学院でのデータ科学教育等についての現在の意識を調査するものです。

※ここで言うデータ科学とは、大規模化したデータを収集して管理し、さらに統計学、数理科学に裏付けられた理論に基づいてコンピュータを用いて分析し、その結果から適切な判断を下す一連の手法を学ぶ学問です。すなわち、統計学、数理科学、情報学が融合した学問を意味します。

・結果：回答 343 名（回答率 57.2%）

## ② 大学院学生へのアンケート調査（資料 16）

調査時期：平成 30 年 6 月～8 月

調査対象：平成 30 年度に名古屋大学大学院医学系研究科（保健学）博士前期課程 1 年生及び 2 年生。

調査方法：アンケート質問紙及び回答用紙（資料 18、19）は教員を通じて対象学年の全大学院学生に配布し、自由意志によるアンケート参加を説明し、無記名の回答用紙を配布場所とは別に設置した回収箱により回収した。

実施責任者：名古屋大学医学部保健学科長

アンケートの趣旨の明示（資料 15）：学部学生に同じ

・結果：回答 73 名（回答率 63.5%）

③ 医療関連機関・企業等アンケート（資料 18、19）

調査時期：平成 30 年 10 月

調査対象：東海地方主要医療機関及び名古屋大学キャリアサポート室登録企業のうち  
医療関連企業合計 315 施設

（内訳） 医療機関

東海地方の市域医療支援病院及び特定機能病院 55 施設

研究機関

国立高度専門医療研究センター 8 施設

独立行政法人 3 施設

シンクタンク 8 施設

大学（保健学 5 専攻のいずれかの専攻・学科が設置されている大学）  
48 施設

企業

医療関連上場企業 193 施設

<http://www.kabutore.biz/rensyu/kanrenmeigara39.html>

「ヘルスケア IT2018」に参加した上場企業

<http://www.healthcarejapan.com/news/>

「医療 I T バーチャル展示会」に参加した上場企業

<http://www.innervision.co.jp/healthcareit>

調査方法：調査対象企業等に郵送にて質問及び回答用紙を送付し、無記名の回答用紙  
を返信用封筒にて回収した。

実施責任者：名古屋大学医学部保健学科長

アンケート調査の趣意書（資料 18）

・結果：81 社（医療関連機関 39 施設、企業等 42 施設）（回答率 25.7%）

アンケート調査の全内容は「アンケート調査結果」（資料 19～22）に掲載した。

（エ）学生納付金の設定の考え方

名古屋大学は、文部科学省の「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16  
年 3 月 31 日文部科学省令第 16 号）」に示されている授業料、入学料及び検定料の標準額を  
もって設定料金としている。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

大学院進学者となる学生は、主に名古屋大学医学部保健学科の学生である。名古屋大学

医学部保健学科では育成する人材像（教育目標）は、名古屋大学の目指す人材「勇気ある知識人」として、1) 知識・技能、主体的な創造性をもつ、2) 立ち向かう探究心を有する、3) 科学的論理性と倫理性・人間性に富む、4) 豊かな想像力・独創性と使命感を持ち保健医療を推進する学生である（名古屋大学医学部保健学科ディプロマ・ポリシー、URL: <http://www.nuqa.nagoya-u.ac.jp/policies/index.html>）。名古屋大学では大学院進学へのマインドを高め、研究者育成への教育を学部教育から推進している。また、名古屋大学中期計画 NU MIRAI 2020 及び名古屋大学指定国立大学提案概要に掲げるように、卓越した大学院人材の育成をめざし、学部学生の大学院進学への高いマインドを醸成する環境を提供している。

医学部保健学科では、学部教養教育科目での情報科学教育の充実、卒業研究及び論文作成における融合的な指導、大学院進学を念頭にした選択科目の設定等を学部教育課程に付加していくことにより、学部教育においても大学院進学へのモチベーションを高める努力を続ける。学部教育における卒業研究は研究リテラシの教育とともに、学部学生が研究と大学院進学に向けて興味と意欲が高まるように、大学院生ティーチングアシスタント (TA) による指導や研究室での大学院生との交流を積極的に行っている。学部における卒業研究でも情報科学領域の研究実施と指導体制を徐々に増やしていく予定である。

大学院進学については、学部学生に 3 年生を中心として大学院説明会を実施し、各専門分野での研究を紹介しつつ大学院での生活や研究について具体的な説明や個別面談の機会を提供している。学生保護者に対しては、本学が毎年 10 月に実施しているホームカミングデイの際に保護者等懇談会を開催し、研究教育や進学、就職、人材需要について説明し、大学院進学についての理解を得るように努めている。そのほか、医学系研究科（保健学）の紹介冊子の作成と配布、大学院教育プログラム（G30 プログラム、リーディング大学院等）についての冊子の配布、及びホームページの充実等による広報に務める。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の要請に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

(ア) 次世代社会を担う医療人材の育成

国立大学大学院における保健学は、高度医療専門職養成と研究者育成を目的として平成に入ってから順次設置された（看護学 42 大学、放射線技術科学 11 大学、臨床検査技術学 20 大学、理学療法学 14 大学、作業療法学 12 大学）。本大学院も含めて研究水準を高める努力が続けられているものの、従来型の専門職養成に重点が置かれる状況が続き、今後急速に変化する医療情報社会へ対応した教育研究と人材の育成への対応は十分とは言えない状況である。

日本が掲げる新たな情報社会 Society5.0 において医療分野を担う人材の育成には、高い水準の情報科学を基盤とした教育と研究が必須である。育成の目的となるヘルスケア・サイエンティスト（情報科学リテラシを有した高度医療人材）は、高度化・情報化されつつ

ある医療機関における中核的人材として、医療情報化社会を牽引する関連企業との懸け橋となる人材として、高い需要を有する人材と考える。

本大学院が輩出を目指す人材は、単に情報科学リテラシを有するのみならず、高い問題解決能力と研究力を有し、医療情報科学を牽引する人材である。指定国立大学法人としての名古屋大学は、世界最高水準の教育研究活動の展開を行い、①世界の有力大学と伍し、②社会や経済の発展に貢献する具体的な取組と成果、③国立大学改革の推進役となることが求められる。名古屋大学の指定理由の重点課題には、「医学・生命科学研究」とともに保健医療に強く関連する「未来エレクトロニクス研究」が含まれている。指定国立大学法人に求められる世界最高レベルの研究力を涵養する教育研究体制が本人材に必須な環境と思慮し、目的とする人材育成は指定国立大学が付託された責務であると考えている。

最高水準の研究を実現しつつ専門領域の学術的活動を牽引し、医療情報科学の知識と技術に関する教育体制を整えることで **Society5.0** が目指す次世代社会に貢献する人材を輩出することが本大学院も目的であると同時に人材育成の要請と考えている。

(2) (1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

本構想が社会的な人材需要を踏まえたものであることは、政府等のさまざまな政策や提言に沿った構想であることから説明できる。また、地域的な人材需要としては、東海地方の医学・医療を牽引する基幹国立大学として名古屋大学は東海地方の医療界及び関連産業界において人材育成を強化し、ニーズに応じていく重要なミッションを担っている。

(ア) 内閣府による政策 **Society5.0**

**Society5.0** における医療分野での新たな価値創造では「リアルタイムの生理計測データ」「医療現場の情報、医療・感染情報、環境情報といった様々な情報を含むビッグデータを解析」「ロボットによる生活支援・話し相手などにより一人でも快適な生活を送ること」「リアルタイムの自動健康診断などでの健康促進や病気を早期発見すること」「生理・医療データの共有によりどこでも最適な治療を受けること」及び「医療・介護現場でのロボットによる支援で負担を軽減すること」等、次世代医療現場における情報科学利用は確実に進みつつある（資料 23）（[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/medical.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/medical.html)）。

①経済団体連合会による **Society5.0** 時代のヘルスケアシナリオ（2018年3月20日）

経済団体連合会のアクションプランとして挙げられている 1) ライフコースデータ等の収集・連携・活用、2) 人体の仕組みの解明、3) 新たなヘルスケアサービスの展開、4) ヘルスケアシステムの構築、のいずれについても医療情報科学における人材育成が必須である。

（資料 24）

（[https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/021\\_gaiyo.pdf#search=%27%E5%8C%BB%E7%99%82%E7%A4%BE%E4%BC%9A+Society+5.0%27](https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/021_gaiyo.pdf#search=%27%E5%8C%BB%E7%99%82%E7%A4%BE%E4%BC%9A+Society+5.0%27)）

②厚生労働省の提言「医療分野の情報化の推進について」

広域医療情報連携、安全管理、標準化等、医療情報の基盤整備と人材育成によって達成される継続した政策が実施されつつある。

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/johoka/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/johoka/index.html))

東海地方を中心として実施した医療関連機関でのアンケートでは、医療専門職とは異なる情報解析や研究開発を推進する新たな人材としての採用が想定されている(資料13)。企業等のアンケート調査においても情報科学教育を受けた大学院修了者の需要が示されている(資料12、13)。

情報化社会におけるこれらの政策や社会変革に対応した医療機関や関連企業の発展は情報科学と医療現場をつなぐ高度な人材の供給が伴って初めて具現化される。来るべき医療分野における情報科学領域の知識と技術をもった質の高い人材の輩出は、社会的・地域的な需要に合致しているのみならず、名古屋大学ビジョンに沿って付託された責務と考える。

## 資料目次

- 資料 1 名古屋大学における学部及び大学院入学状況
- 資料 2 名古屋大学各学部における学部と大学院博士前期課程の学生定員比率
- 資料 3 大学院学生定員の見直し
- 資料 4 過去 3 年間の卒業生の進路推移
- 資料 5 過去 6 年間の大学院博士前期課程 入試志願者・入学者数推移
- 資料 6 学部学生への進路アンケート
- 資料 7 学部学生の進路における情報科学の必要性に関するアンケート
- 資料 8 学部学生及び大学院学生の大学院情報科学分野への進学希望アンケート
- 資料 9 **Information and Communication Technology (ICT) 人材不足の見通し (全業種)**
- 資料 10 過去 6 年間の大学院博士後期課程 入試志願者・入学者数推移
- 資料 11 医療機関・企業等アンケート
- 資料 12 医療機関・企業等アンケート
- 資料 13 医療機関・企業等アンケート
- 資料 14 大学院生 (保健学在生) アンケート
- 資料 15 学部学生アンケート質問用紙
- 資料 16 大学院学生アンケート質問用紙
- 資料 17 アンケート回答用紙 (全てのアンケートに共通)
- 資料 18 医療関連機関及び企業アンケート趣意書
- 資料 19 医療関連機関・企業アンケート
- 資料 20 学部アンケート調査集計
- 資料 21 大学院アンケート調査集計
- 資料 22 医療関連施設・企業等アンケート調査集計
- 資料 23 **Society 5.0 における医療・介護領域の新たな価値 (内閣府作成資料)**
- 資料 24 **Society 5.0 時代のヘルスケア (2018 年 3 月日本経済団体連合会)**

名古屋大学における学部及び大学院入学状況

■ 学部入学状況

平成30年4月1日現在

学 部	募集人員	入学者数
		計
文学部	125	129
教育学部	65	72 (2)
法学部	150	156
経済学部	205	211 (1)
情報学部	135	137
理学部	270	283 (3)
工学部	680	696 (9)
農学部	170	183 (4)

注 ( ) 内は外国人留学生を示し、内数。

■ 大学院入学状況

平成30年4月1日現在

研究科	博士前期課程・修士課程	
	入学定員	入学者数
		計
人文学研究科	104	105 (62)
教育発達科学研究科	54	39 (9)
法学研究科	35	11 (7)
	50	30
経済学研究科	44	47 (26)
情報学研究科	144	149 (27)
理学研究科	171	192
工学研究科	603	669 (54)
生命農学研究科	151	156 (11)

注 ( ) は外国人留学生を示し、内数。

法学研究科の下段は専門職学位課程（法科大学院）。

平成29年10月入学のM1・D1及びM1・D1に原級留置されている学生は除く。

(名古屋大学プロフィール 2017 より抜粋)

名古屋大学各学部における学部と大学院博士前期課程の学生定員比率

	学部定員	博士前期課程	大学院／学部 比率
文学部	125	104	0.83
教育学部	65	54	0.83
法学部	150	85	0.57
経済学部	205	44	0.21
情報学部	135	144	1.07
理学部	270	171	0.63
工学部	680	603	0.89
農学部	170	151	0.89
医学部保健学科(現行)	200	48	0.24
医学部保健学科(改編後)	200	70	0.35

(資料 1 より転記・算出)

大学院学生定員の見直し

現行

専攻	前期課程	後期課程
看護学	18	6
医療技術学	20	7
リハビリテーション療法学	10	4
合計	48	17



改編

専攻	前期課程	後期課程
総合保健学	70	20
合計	70	20

過去3年間の卒業生の進路推移

全体	H27	H28	H29	平均
進学	19.4%	24.3%	19.4%	21.0%
就職(医療関係)	76.0%	68.6%	68.2%	70.9%
就職(他)	2.8%	4.8%	7.1%	4.9%
その他	1.8%	2.4%	5.2%	3.1%
合計	100%	100%	100%	100%

検査技術科学専攻	H27	H28	H29	平均
進学	24.4%	38.1%	31.7%	31.4%
就職(医療関係)	70.7%	54.8%	53.7%	59.7%
就職(他)	4.9%	2.4%	9.8%	5.7%
その他	0.0%	4.8%	4.9%	3.2%
合計	100%	100%	100%	100%

看護学専攻	H27	H28	H29	平均
進学	8.0%	12.2%	6.0%	8.7%
就職(医療関係)	88.5%	80.5%	84.5%	84.5%
就職(他)	3.4%	4.9%	6.0%	4.8%
その他	0.0%	2.4%	3.6%	2.0%
合計	100%	100%	100%	100%

理学療法学専攻	H27	H28	H29	平均
進学	32.0%	47.6%	42.1%	40.6%
就職(医療関係)	56.0%	47.6%	52.6%	52.1%
就職(他)	0.0%	4.8%	0.0%	1.6%
その他	12.0%	0.0%	5.3%	5.7%
合計	100%	100%	100%	100%

放射線技術科学専攻	H27	H28	H29	平均
進学	30.2%	25.0%	22.7%	26.0%
就職(医療関係)	67.4%	72.7%	59.1%	66.4%
就職(他)	0.0%	2.3%	9.1%	3.8%
その他	2.3%	0.0%	9.1%	3.8%
合計	100%	100%	100%	100%

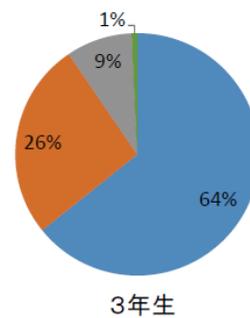
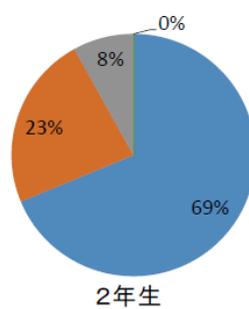
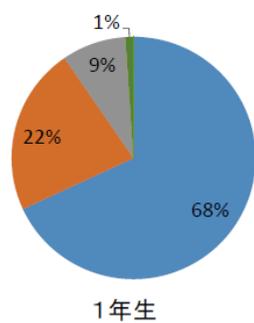
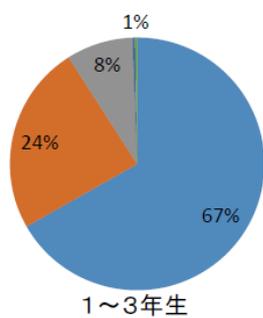
作業療法学専攻	H27	H28	H29	平均
進学	19.0%	19.0%	21.7%	19.9%
就職(医療関係)	76.2%	61.9%	65.2%	67.8%
就職(他)	4.8%	14.3%	8.7%	9.3%
その他	0.0%	4.8%	4.3%	3.0%
合計	100%	100%	100%	100%

過去6年間の大学院博士前期課程 入試志願者・入学者数推移

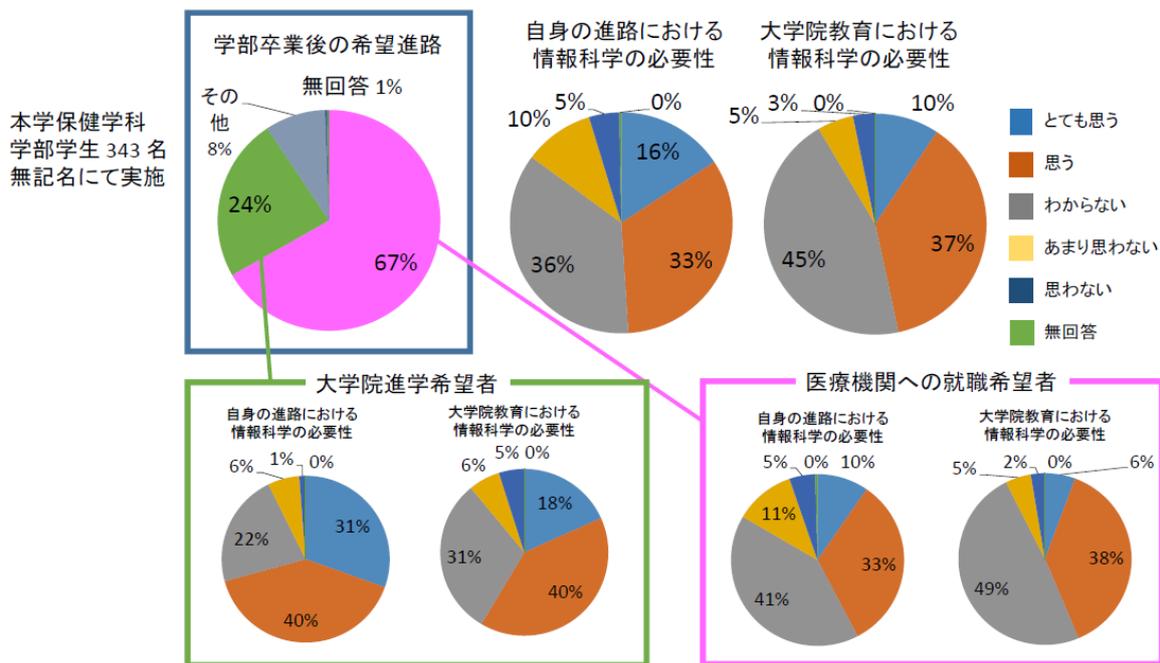
専攻名	教育研究分野	募集 定員	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
			志願者 数	志願者 倍率	入学者 数															
看護学		18	19	1.1	18	20	1.1	17	26	1.4	17	16	0.9	13	24	1.3	18	19	1.1	16
医療技術学	医用量子科学	20	20	1.8	28	24	2.0	30	12	1.5	28	18	1.6	26	13	1.6	25	14	1.5	25
	病態解析学		15			15			17			13			18			16		
リハビリテーション 療法学	理学療法学	10	12	2.4	16	10	1.8	14	10	1.9	15	10	1.6	13	13	1.7	15	15	2.1	16
	作業療法学		12			8			9			6			4			6		
合計		48	78	1.6	62	77	1.6	61	74	1.5	60	63	1.3	52	72	1.5	58	70	1.5	57
定員充足率					129%			127%			125%			108%			121%			119%

## 学部学生への進路アンケート

質問：あなたは学部卒業後にどのような進路を考えていますか  
(匿名任意提出にて回答 343 名、回答率 57.2%)



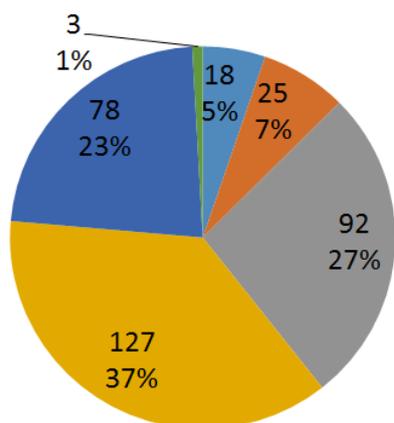
## 学部学生の進路における情報科学の必要性に関するアンケート



学部学生及び大学院学生への大学院情報科学分野への進学希望アンケート

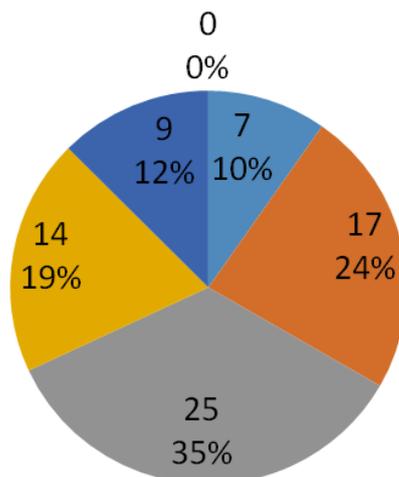
【学部生】

大学院に保健医療分野での情報科学分野があった場合進学したいと思いますか



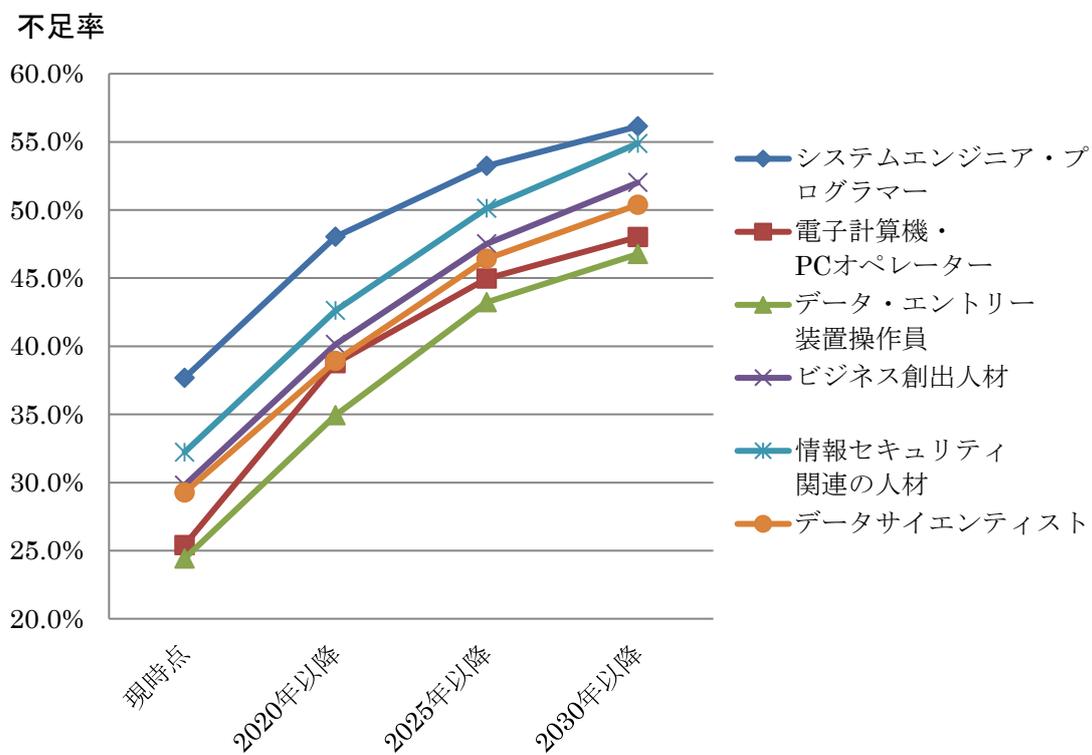
【大学院生】

大学院に保健医療分野での情報科学分野があった場合進学したかったと思いますか



- とてもそう思う
- そう思う
- わからない
- あまり思わない
- 思わない
- 無回答

Information and Communication Technology (ICT) 人材不足の見通し (全業種)  
(IoT 時代における ICT 経済の諸課題に関する調査研究・総務省・平成 29 年より)

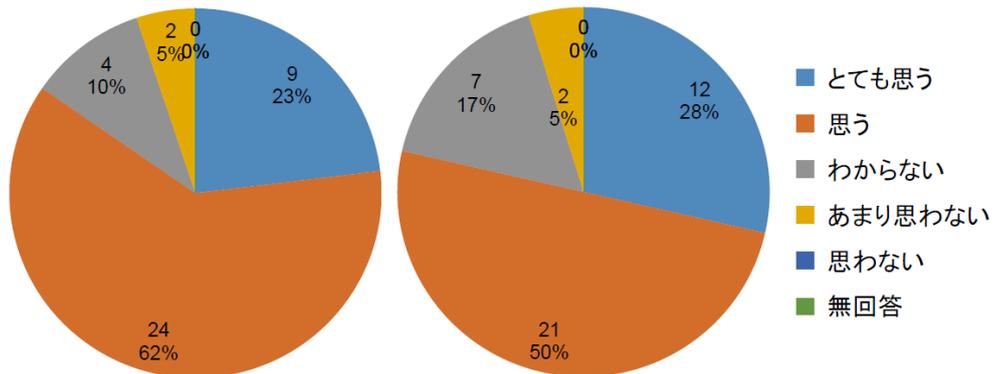


過去6年間の大学院博士後期課程 入試志願者・入学者数推移

専攻名	教育研究分野	募集 定員	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
			志願者 数	志願者 倍率	入学者 数															
看護学		6	8	1.3	6	11	1.8	6	12	2.0	9	9	1.5	7	12	2.0	8	9	1.5	8
医療技術学	医用量子科学	7	7	1.6	11	3	1.0	6	3	0.6	4	2	0.9	5	2	0.4	3	2	0.4	3
	病態解析学		4			4			1			4			1			1		
リハビリテーション 療法学	理学療法学	4	6	1.8	5	2	1.5	6	1	1.3	5	3	1.8	7	5	1.8	6	3	0.8	2
	作業療法学		1			4			4			4			2			0		
合計		17	26	1.5	22	24	1.4	18	21	1.2	18	22	1.3	19	22	1.3	17	15	0.9	13
定員充足率					129%			106%			106%			112%			100%			76%

医療機関・企業等アンケート

質問：今後、医療職養成大学院では保健医療分野での情報科学教育が必要と思いますか

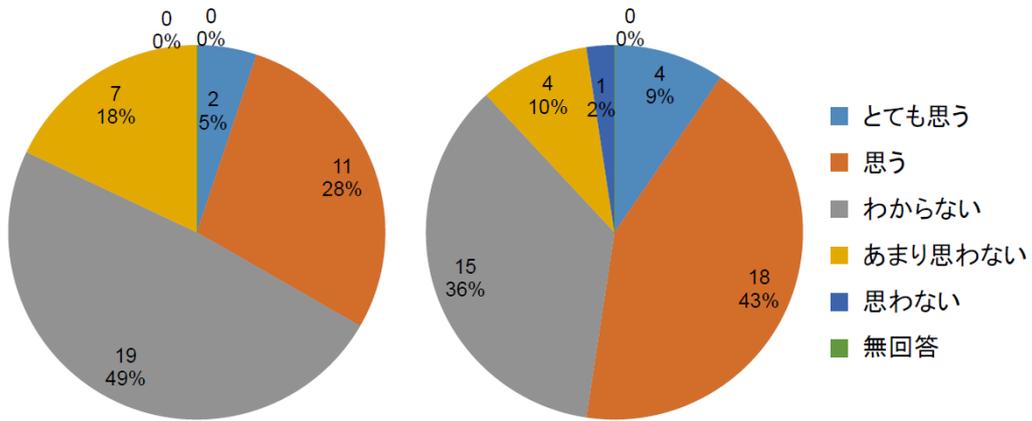


医療関連機関 39 施設

企業等 42 施設

医療機関・企業等アンケート

質問：情報科学を基盤として研究に取り組んだ大学院生（修士）修了者の採用を希望しますか

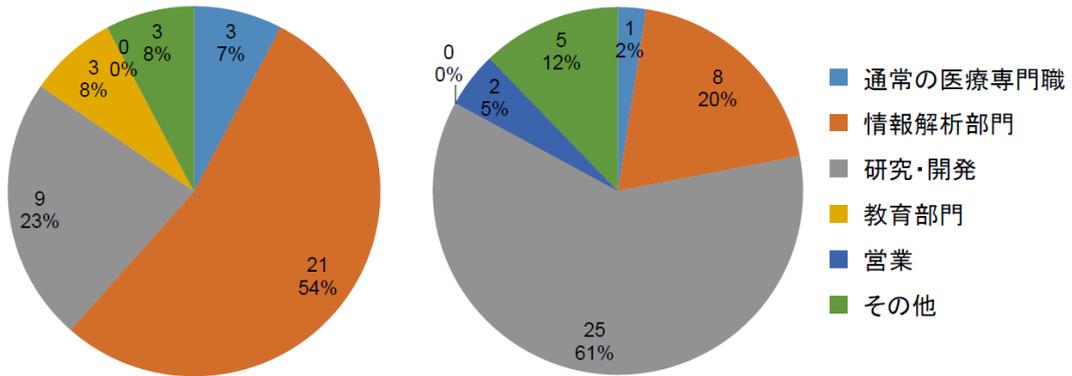


医療関連機関 39 施設

企業等 42 施設

## 医療機関・企業等アンケート

質問：情報科学を基盤として研究に取り組んだ大学院生（修士）修了者についてどのような部門への採用が想定されますか

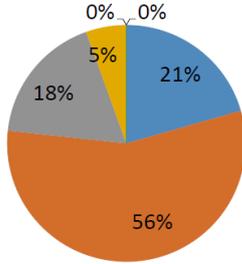


医療関連機関 39 施設

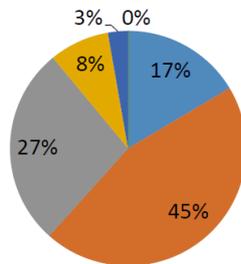
企業等 42 施設

## 大学院生（保健学在学学生）アンケート

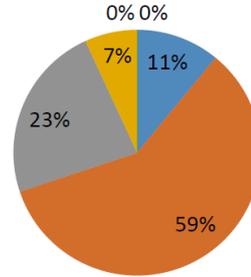
今後、大学院では保健・医療分野での情報科学教育が必要だと思いますか



大学院教育に情報科学についての選択科目があった場合、履修を希望しますか



ご自身の進路を考えた場合、情報科学の知識や技術が必要になると思いますか



- とても思う
- 思う
- わからない
- あまり思わない
- 思わない
- 無回答